

環境に係る情報協議会

国営農地再編整備事業 富良野西地区

1. 環境に対する考え方

《農村環境の現状と課題》（「富良野市田園環境整備マスタープラン」より）

【現状】

大雪山国立公園、富良野芦別道立自然公園、東京大学演習林を有し、雄大な景観とさまざまな野生動植物が息づく豊かな自然環境に囲まれている。これらの自然環境は、地域住民の生活を豊かにするとともに、雄大な農地の背景を成す景観要素であり、彩り鮮やかに広がる農地と一体的に田園景観を形成している。

【課題】

農地や森林などの自然資源の積極的な保全と回復を行い、人と自然が共生できるまちづくりが重要であり、生態系を含めた多種多様な保全活動が必要である。

《環境保全の基本的考え方》（「富良野市田園環境整備マスタープラン」より）

「持続可能な農地の保全と活用、森林の保全と育成」「魅力ある森林・農村景観の保全と都市景観の形成」の2つを基本方針に掲げ、豊かな「農村景観」形成の達成を目指す。

2. 環境配慮計画の策定に向けた調査

《基本方針》

○調査位置の考え方

本地区の環境は、大きく傾斜地（畑利用）と平坦地（水田利用）の2つのエリアに分けられることから、それぞれの区域において調査位置を決定する。

【動植物の生息・生育調査】

既往調査の情報が不足している、傾斜地の山林隣接地（畑利用）及び平坦地の支流河川沿（水田利用）いにおいて、現地調査を実施する。

【水質状況調査】

傾斜地エリア：御料三線川と空知川合流点、八線川
平坦地エリア：十二線川と空知川合流点

○調査項目の考え方

本地区内では、環境調査が実施されていないため、本事業で想定している整備により、生息・生育環境に直接影響を与えることが想定される各区域において、調査が行われていない項目の現地調査を実施する。

《環境調査内容》

○調査項目 ①哺乳類 ②鳥類 ③魚類 ④両生類・は虫類
⑤昆虫類 ⑥底生動物 ⑦植物 ⑧水質

○調査方法 哺乳類：目撃法、フィールドサイン法
鳥類：定点観察法、ラインセンサス法
魚類：採捕調査
両生類・は虫類：目撃法、フィールドサイン法
昆虫類：任意採集法、ベイトトラップ法
ライトトラップ法
底生動物：定性採集法
植物：植物相調査
水質：SS、濁度